

目的 新学習指導要領では、中学校に「情報基礎」、高等学校に「家庭生活と情報」、「家庭情報処理」等のコンピュータ教育の内容が設定され、学校教育におけるコンピュータの導入が積極的に推進され始めた。そこで、愛媛県の学校教育におけるコンピュータ導入の実態等を調査し、コンピュータ教育の動向について検討した。

方法 愛媛県・松山市内、高知県・高知市内の中学校技術・家庭科教師を対象に、平成2年6～7月、アンケート調査を行い、コンピュータ教育についての意識とコンピュータ導入の実態を比較調査した。配布数（回収率）は、愛媛県27枚（20枚、74.1%）、高知県23枚（12枚、52.2%）であった。また、平成2年10月、愛媛県教育委員会および県内小・中・高校のうち、コンピュータ教育がすすんでいるとされる学校を訪問し、聞き取り調査を行った。

結果 愛媛県の学校におけるコンピュータ設置状況は、平成2年度現在、小学校は193校（49.2%）で450台（1校あたり2.3台）、中学校は130校（81.3%）で489台（1校あたり3.8台）である。中学校では、平成5年度までに生徒2人に1台の割合で設置される予定である。コンピュータ教育を技術・家庭科に導入することに対する中学校家庭科教師の意見は、賛成が愛媛県79%、高知県25%で、愛媛県の教師の方が意識は高かった。しかし、1校あたりの設置台数が少ない等の理由により、授業への導入はまだすすんでいない学校がほとんどであった。すでにC A I導入授業が行われているのは、視聴覚教育研究指定校等の一部の中学校で、技術領域の内容について実験的に行われているにすぎなかった。